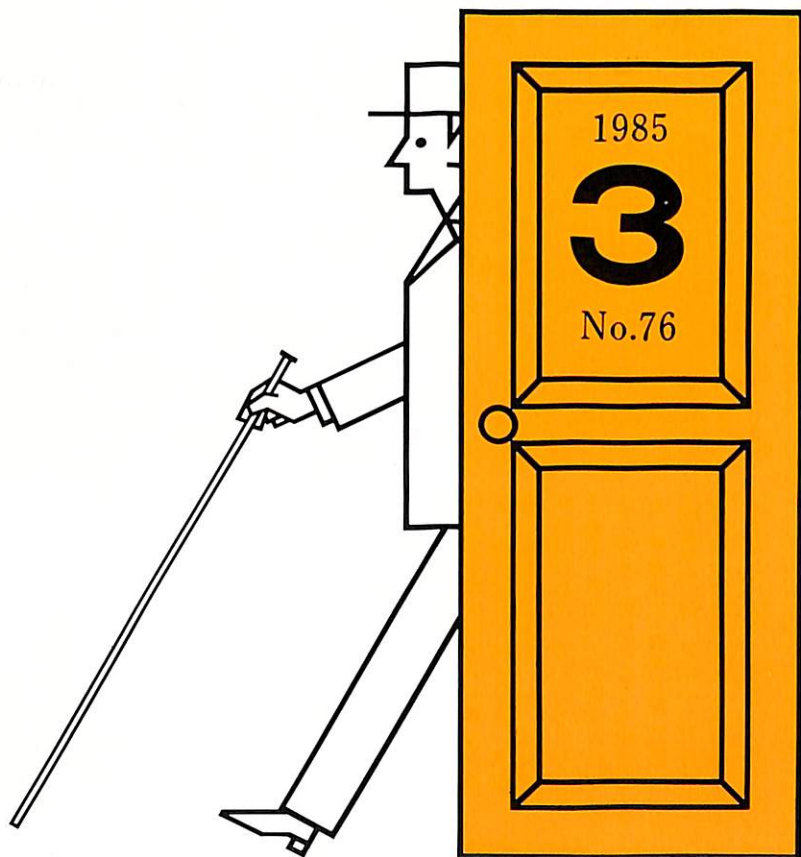


昭和四十六年六月一七日
第三種郵便物認可
昭和五十九年一月十五日
SSK通巻第二一九一号(毎月六回、5の日、0の日発行)

視覚 障害

その研究と情報

特集*職業人としての条件



ISSN 0385-7476

SSK

◎どの頁、どの欄から読んでも興味つきない百科年表！

近代日本総合年表

一八五三年（ペリー来航）～一九八三年

第二版

●一八五三年（嘉永六年）ペリーの浦賀来航によって近代日本の幕が明けた。以来、

明治・大正・昭和三代の激動の歴史は、その中に生きてきた祖父母、父母そして

私たちの歩みでもあった。

●本書は、近代日本の歴史的諸事実の総合的記録として一九六八年（明治百年）に刊行され、人それぞれの「自分史」の背景をなす歴史の総体を再現した年表として

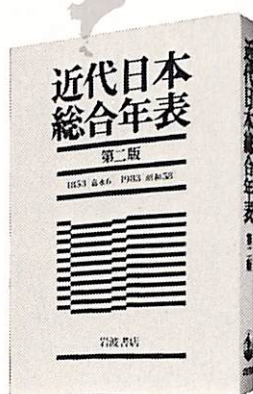
国民の多数から歓迎され愛用されてきた。

●初版刊行後、政治・経済をはじめ各分野の動きは以前にも増して多角化し、国際的拡がりをもつようになった。この十六年間分を増補し、旧版に必要な補訂を加えた第二版をおくる。

加えた第二版をおくる。

■編集委員

勝本清一郎／西田長寿／江口朴郎
八杉竜一／山本二郎／遠山茂樹
丸山真男／隅谷三喜男／安藤良雄
星野芳郎／藤原彰／今井清一
内川芳美／山住正己／植手通有
山極晃／三和良一／栗屋憲太郎



四六倍判・クロス装・上製函入・
六五二頁 定価六八〇円

■「内容見本」進呈

【本書の特色】

▼構成 一年の全体像が一目で分るよう、政治・経済・社会・学術・芸術・国外の六欄を見開き二面（四頁）で構成する。▼厳選された収載項目 十二万余の候補項目から三万六〇〇〇項目を選定。六部門の記載項目は相互に関連・補足するよう配慮した。▼巻末に「典拠文献一覧」（総合索引）付 詳細な索引は本年表の百科事典としての利用を可能にする。

岩波書店



東京・千代田・一ツ橋
振替（東京）6-26240

目 次

1985年 3月 №76

2 ページ評論	小川 孟	2
---------	------	---

特集 職業人としての条件

英語教師の条件	辻内富美子	5
「ブレイリスト」の条件を探る	水谷 昌史	15
プログラマーの条件	大里千之助	22
東京都福祉職(点字受験)のある職場	田中 章治	27

ボランティア西・東

人の和のよろこびのなかで — 障害者の観劇の会を すすめる遠藤貞男さん	31
--	----

この人と語る

東京にやって来たコロンビアの盲教授

ラファエル・カンボ 石川 准	37
----------------	----

視覚障害情報処理技術年報 (1984年)	51
----------------------	----

インフォメーション・コーナー	64
----------------	----

編集後記	78
------	----



職業人と人間としての条件は不可分

国立職業リハビリテーション・センター

小川 孟

与えられたテーマについて考えているうちに、『ほんの数枚ですから……』という甘言に乗せられて、とんだ難題を引き受けてしまったことに気が付いた。私という人間は『職業人』としての意識が極めて稀薄で、私自身と職業人としての私とを鮮明に区別できない。こうした職業人感覚の欠如が、筆を鈍らせている大きな原因であるらしい。

職業人でつまずいていたのでは、とても『……としての条件』には手が付かない。そこで、やむなく原点に戻って「職業」の概念から復習することにした。手元の社会学辞典によれば「職業の概念には通常、個性の発揮、社会的連帯の実現及び生計の維持という、個人的、社会的、経済的諸側面が含まれている。すなわち、社会生活を営む人々が職業につくことによって、その才能と境遇に応じた社会的役割を分担し、それを継続的に遂行し実現していくかたわら、その代償として一定の収入を取得し、必要な生活資料を獲得する行為様式である。」と考えられている。しかし、現実の職業にはこれら三要素の調和ある統一はほとんど見られない。あえて挙げれば、成功した芸術家にその理想形態が残されているように思えるが、これも成功するまでに経済的側面の破綻で落伍する場合が少なくないし、成功しても、ともすれば経済的な面ばかりぎらぎらして、社会的側面が貧しくなりがちである。今の世の中の風潮からすれば、金が最優先であり、衣食足りてのち、社会的役割への配慮も多少生まれるが、個性の発揮は大方あきらめているように見える。

しかし、現実はどうであっても、『職業人としての条件』の一つとして、この三要素の調和を常に意識していることは大事であろう。ある時期、どれか一つの側面にのみ集中するときがあっても、他の側面のあることを知り、復元への努力をすることが職業人としての

成功へつながると思うからである。

大抵の人は子どもの頃、大きくなったらなんになりたいか？という質問を何回となくされたであろう。昔は男の子は大将が模範解答だったが私などは電車の運転士を真面目に考えていた。何になるにしても、必要なのは勉強、そして手に職をつけることであるといわれた。今でいう学歴と技術である。これも職業人としての条件には欠かせないが、ここで触れたいのはそのことではない。学歴、技術を身につけた職業人と本体の人間との関係である。学歴や技術が働くのではない。それを身につけた人間が働くのである。よく例に出される医師、弁護士といった専門的職業は、先に述べた職業の三要素が調和しているからであろう。（最近はそのともいえないが……）このような専門職には守るべき倫理綱領がある。それには、社会的役割や人間性、人格といった面が強調されている。高度の知識や技術は不可欠であるが、それを身につけた人格こそが職業人として重要であることを示しているのだと思う。

もう少し一般的なのは雇用されている職業人、いわゆるサラリーマンである。雇用される側の人間は生活を維持する収入に対する期待が大きい。雇用する側は、企業の目的である利潤を上げるのに役立つ人間を求めている。そのための要件を備えているのが職業人としての条件である。しかし、ここでも意外に人間そのものが重視されている。最先端の技術を開発する能力があっても産業スパイ事件に巻き込まれるようでは困る。営業成績は抜群でも結果として社会的制裁を受けるようでは企業にとって好ましい人間とはいえない。組織の中での人間関係が強調されるのも、人間を丸抱えする日本の雇用慣行の特色であり、たんに学歴や技術だけを求めているのではないことを示している。職業人とその人間本体とは不可分なのである。

職業人としての自覚に乏しい者が思いつく『職業人としての条件』はこんなものであるがいかがであろうか。

— 編 集 後 記 —

進学・就職のシーズンとなりました。生徒や訓練生から進路の相談を受け、お悩みの方も多と思います。本号の特集は、いろいろな分野に就労している視覚障害者がどんな資質を持っているか、裏返せば、こうした職種に就くためにはどんな条件を備えなければならないかを、ケースレポートを中心に分析してもらいました。皆様のお役に立てば幸いです。

本号の特集と大いに関係があるのですが、日本盲人福祉研究会では、「視覚障害者労働白書1985年版 — 職業に関する資料集」(B5判、本文246ページ)を定価2,000円(送料300円)で新たに刊行しました。視覚障害に関する豊富なデータが掲載されており、お手元に置いておけば必ずお役に立つものと思います。2年毎に改訂する予定ですが、視覚障害児・者の仕事に従事しておられる方は、特に机上に1冊お備え下さい。販売の取扱いは、他の図書と同じく日本点字図書館用具部(振替口座 東京5-44522)で行なっておりますので直接お申し込み下さい。

今回も通常のページ数を大幅に越えてしまいました。読者の皆様に対してはサービスになるのですが、発行者としては懐具合が心配です。本誌の普及や購読者拡張にぜひご協力いただきますようお願いいたします。
(田中 徹二)

視 覚 障 害

1985年3月 No.76

年間購読料 3,000円(送料とも)

発行日 1985年3月1日

編集人 (連絡先)

日 本 盲 人 福 祉 研 究 会

〒160 東京都新宿区高田馬場1丁目
日本点字図書館内 23番4号

電話 (03) 200-1130

振替口座 東京 6-16103

発行人 身体障害者団体定期刊行物協会

〒157 東京世田谷区砧8-21-3

印刷所 合同印刷株式会社

〒130 東京都墨田区業平2-9-13
電 話 (624) 61111 (代表)

協賛団体 日本点字図書館

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みになりたい場合には
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。